

愛顔 かがやけ 池島魂



～「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を目指して～

発行：令和8年7月10日（金）NO9 文責：校長 津田 幸一

学校HP URL <https://www.nagasaki-city.ed.jp/ikeshima-h/>

子供の「よさ」を引き出し、自信を育むために

まもなく1学期が終了です。夏休みも目前となり、子供たちもうきうきしているようです。夏休み中の家庭教育の参考になればということで記します。

子供は、周りの大人から褒められたり、時には諭されたりする経験を通して、自分の行動に価値を見出し、より良い方向へと成長していきます。

特に、「褒められる」体験は子供の心に栄養を与えます。たくさん褒められて育つ子供は、自分の良い行動に自信を持ち、それをさらに伸ばそうとする意欲が湧いてくるものです。私たち大人が、目に見える「結果」だけでなく、そこに至るまでの「過程（プロセス）」に目を向けることで、褒めるチャンスはぐんと増え、子供の成長を支える素晴らしいサイクルが生まれます。

★「褒めるきっかけ」を大人がつくる

とはいえ、「うちの子、なかなか褒めるポイントが見つからなくて……」と悩まれることもあるかもしれません。実は、褒めるためには、あえて「褒めるための仕掛け」を作ることが大切です。私たち教職員も、「褒める場面を自ら作ってでも褒める」という決意を持って、日々子供たちに向き合っています。

例えば、以下のような小さなステップを提示し、できたらその場ですぐに褒めるという積み重ねです。

- 「おはよう」の挨拶や返事の仕方を教え、できたらすぐに褒める
- ノートの書き方を一緒に確認し、その通りに書けたら褒める
- 本人の得意なことや個性が活かせるお手伝いをお願いし、活躍を褒める

こうした小さな成功体験の積み重ねは、情緒を安定させ、周囲への信頼感を育みます。最初は反発していた子供も、認められる喜びを知ること、次第に落ち着きと素直さを取り戻していくものです。

★大切なのは「心のつながり」

人は、「何を言われるか」と同じくらい「誰に言われるか」を重視します。自分のことを心から認め、信じてくれている人からの言葉だからこそ、子供の心に深く響くのです。

私たち教員も、まずは子供との強固な信頼関係を築くことを第一に考えております。ご家庭におかれましても、一番の理解者である保護者の皆様から贈られる「認める言葉」を大切にいただければ幸いです。



教育週間終了のお知らせとお礼

地域の皆様、日頃より本校の教育活動にご理解と温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。

先日、今年度の「教育週間」が無事に終了いたしました。期間中は、校長講話をはじめ、道徳の授業参観、地域の皆様に見守っていただいた安全パトロール、外部講師を招いての情報モラル教育の授業など、多面的な活動を行うことができました。

また、小学生の科学館・平和公園および原爆資料館の見学、炭鉱体験ツアーへの参加など、校外での貴重な体験学習も実施いたしました。子供たちが真剣に、そして目を輝かせながら学ぶ姿が大変印象的でした。

この一週間、子供たちの学びを充実させることができたのは、多くの地域の皆様のお力添えがあったからこそです。心より感謝申し上げます。今後とも、子供たちの健やかな成長を共に見守っていただけますよう、よろしくお願いいたします。

